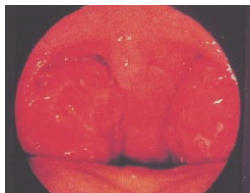


## A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌）

幼児、学童（特に5-15歳）に好発しますが成人も発症することのある冬から春にかけて多くみられる感染症です。一般的に「かぜ」と言われている病気の一つです。「かぜ」と言われているものには、これ以外に、ウイルス感染や細菌感染による扁桃炎、咽頭炎、喉頭炎、鼻炎、副鼻腔炎などが含まれ、また症状からは「かぜ」と言われていても実際には気管支炎やマイコプラズマ肺炎である場合があり、下痢や嘔吐、腹痛をきたしてくる感染症（ロタウイルス感染症や小型球形ウイルス感染症、アデノウイルス感染症等）も「かぜ」と総称されることがあります。

**鼻汁・唾液中の溶連菌の飛散** によって人から人に感染しますが、食品等による経口感染や皮膚の創傷部位からの感染もあります。1-4日の潜伏期間を経て突然の発熱（38度以上）、**咽頭痛・嚙下痛、全身倦怠、扁桃の発赤腫脹、頸部リンパ腺腫脹等** が出現します。また、小児の場合は嘔吐・腹痛などを併発することがあり、特徴的な莓舌や皮疹がみられることもあります。菌が産生する発赤毒素に対して免疫をもたない場合は**猩紅熱**となるので注意が必要です。

診断は血液検査（白血球数、ASO値等）や咽頭の溶連菌培養（型判定可）で行いますが外来で迅速診断キット（凝集反応）を用いて15分以内の診断が可能です（当クリニックでも実施可）。



溶連菌感染症の咽頭と扁桃腫脹

（日本医師会雑誌臨時増刊号 感染症の現状と対策より）

治療薬としてはペニシリン系薬剤が有効ですが、セフェム系薬剤ま

たは耐性に考慮する必要はありますがマクロライド系薬剤でも効果はありますし、特にペニシリンアレルギーのある場合は投与されます。合併症予防のために7-10日間の投与が必要で、重症例では抗生剤の点滴静注を行ったり脱水症状がみられる場合は補液が必要となります（特に小児）。

発熱は通常3-5日以内に下がり、主な症状は通常1週間以内に消失します。ただ、扁桃や頸部リンパ節がもとの大きさに戻るのには数週間かかることもあります。

よく似た症状を示す疾患には、ウイルス性咽頭炎と他の細菌性咽頭炎があり、合併症として、化膿性合併症（扁桃周囲膿瘍、急性中耳炎、急性副鼻腔炎など）や非化膿性合併症（リウマチ熱、急性糸球体腎炎など）がありますので油断はできません。

学校、家庭などの集団での発生が多いので集団内での保菌者の治療や予防が大切です。溶連菌感染症は伝染性紅斑（りんご病）、帯状疱疹等に加えて学校伝染病第3種のその他の伝染病に分類されていますので登校・登園についてはかかりつけ医に相談するようにして下さい。



お尋ねになりたいことはご連絡ください  
また、色々な病気のお話などむらかみクリニックのホームページに掲載していますのでアクセスしてみてください。  
[http://www.h5.dion.ne.jp/~m\\_clinic/](http://www.h5.dion.ne.jp/~m_clinic/)

院長